

## 有料化でごみは減らせるか

「ゴミ有料化を考える集い」開かれる

大型ごみに続き、家庭系ごみの有料化(45リットル袋45円案)が大津市の審議会で検討されています。これに対し4月25日、県大津革新懇主催で「ゴミ有料化を考える集い」が開催されました。

日本共産党和歌山市議団事務局長・小藪真一さんから議会で論戦と住民運動で有料化を止め、ゴミ減量へ取り組みを進めた経験が語られ、続いて行われた同党元衆参議院の岩佐恵美さんの講演では、

ゴミ問題は環境・資源をまもるための課題で「まち

づくり」と「民主主義」が問われている、さらに有料化ではゴミ減量ならず、市民合意のもとで分別リサイクルに取り組むことが必要であることが強調されました。

会場からは生ゴミの堆肥化に取り組んでいる経験や、市の現在のリサイクル方法への疑問など活発な意見が出されました。

集いの最後に佐々木松一市議が、有料化は現在のゴミ処

理費のうち15%ほどを新たに市民負担させようという

ものですが、その前に市が取り組むべき課題があると指摘し、みんなでゴミ問題を考えていこうと提起しました。

→ 集いで講演する元国会議員の岩佐恵美さん



## ごみ問題を考える



### ゴミ減量に取り組む自治体にまなぶ

大津市の行おうとしている有料化はごみ減量に有効か。日本共産党市会議員団は4月26、27日、多治見市と長野市を行政視察しました。

### 自治体独自の工夫と努力

多治見市はごみを23種に分別、集団回収の奨励金は大津市の倍のキロ当たり6円です。リサイクルステーションは600箇所、減量等推進員制度により恒常的な啓蒙活動を行い、2015年資源化率100%という高い目標を掲げています。

長野市はごみを17に分別、集団回収奨励金も多治見市と同程度、自治会などが資源を保管するリサイクルハウスには4分の3の補助金、剪定枝も資源物として毎週回収し堆肥化がはかられています。

### 市民・事業者・行政が一体となった協働のごみ減量

多治見市は人口12万弱ですが、200人の職員が一斉にごみ集積場に立つ啓発活動、ごみの減量に大切な組成分析も年4回(大津市は年1回)行っています。

長野市では毎年ごみ減量強化月間を実施。可燃ごみの4割以上を占める生ごみについても減量アドバイザーが活躍

しています。集団資源回収団体には毎年再登録を義務づけて効果を上げており、大津市とのごみ減量への姿勢の違いを強く感じました。

市議団はひきつづき、広島市や名古屋市の調査も行っています。



多治見市を視察する党市議団

## 党市会議員団 多治見市、長野市を視察

### 今年度の委員会所属が決まりました

- 石黒賀津子 : 総務常任委員会、幼保一元化問題調査特別委員会
- 岸本典子 : 総務常任委員会、地球温暖化対策特別委員会副委員長
- 佐々木松一 : 施設常任委員会委員長、地球温暖化対策特別委員会
- 杉浦智子 : 生活産業常任委員会副委員長、幼保一元化問題調査特別委員会
- 塚本正弘 : 議会運営委員会、教育厚生常任委員会、競輪事業調査特別委員会
- 八木修 : 施設常任委員会、公共施設活性化検討特別委員会副委員長

